

## 高学年実践例

主題名  
教材名

「人間はすばらしい」(よりよく生きる喜び)  
「人間はすばらしい」(P.58~P.62)」

### 道徳的価値について

- 人間は本来、よりよく生きようとする存在であり、人間性をより高めようと努めるすばらしさも持っている。一方で、人間は決して完全なものではなく、すばらしさと弱さが同時に内在している。
- 生きる喜びとは、弱い自分を乗り越えるだけでなく、自分の良心に従って生きることであり、人間のすばらしさを感じ、よりよく生きていこうとすることである。

### 児童について

- この時期の児童は、人間であれば誰もがもっている弱さと同時に、それを乗り越えようとする強さや気高さについて理解することができるようになってくる。
- 様々な障害や困難に出会ったり、自分と友達を比べたりすることで悩んだり、苦しんだりすることも少なくない。しかし、自分自身を人間として高めたいという思いや願いを持っている。

### 教材について

動物それぞれに与えられた力を通して、人間のもつ「すばらしい力」とは何なのかを考えさせることができる。また、自分や友達にもある「すばらしい力」に気付かせ、よりよく生きていこうとする心情や態度を育てていくことができる。

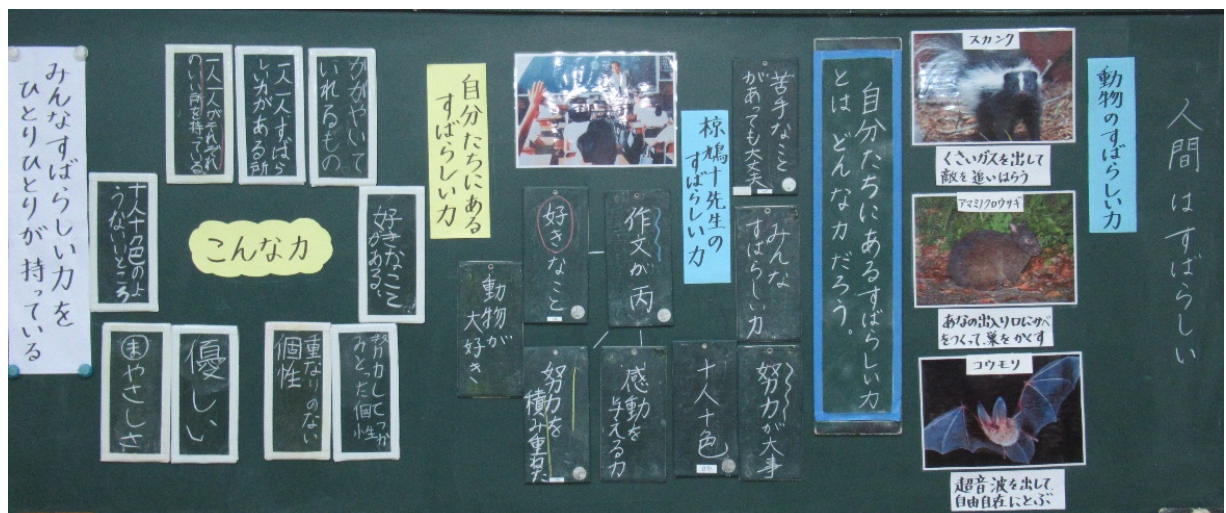
### ねらい

人間がもつ強さや気高さに気づき、よりよく生きようとする心情を育てる。

### 指導にあたって

- 朝の読書で「生きるってすばらしい」を活用し、椋鳩十先生の生き方や心に残った物語について考えたことを交流する。
- 動物が登場する物語を学級に置き、自由に物語にふれさせることで、動物と人間とのつながりや動物の持つ不思議な力について興味を持たせる。
- 本時に入る前に、教材文を読み、一言感想をまとめさせる。感想をもとに、課題を設定して、一人一人にはそれぞれ異なった個性やよさ、可能性があることに気付かせ、大切にしようとする心情について追究していく。

### 板書



## 実践記録

	主な学習活動と児童の反応	指導上の留意点
導入	1 教材を読んだ感想を伝え合う。 2 本時の課題を捉える。 自分たちにある「すばらしい力」とは、どんな力だろう。	○ 登場する動物について感想を自由に出させ、動物のもつすばらしい力についての関心を高める。 ○ 動物だけでなく、自分たちのすばらしい力についての捉えを話し合い、本時の課題につなげる。
展開	3 「椋鳩十先生のすばらしい力」とは、どんな力かを考える。 ・ 苦手なことをあきらめない力 ・ 動物の心を読む力 ・ 物語を書き上げる力 4 自分たちにある「すばらしい力」について考える。 ・ 温かい言葉をみんなにかけることができる力 ・ 苦手なことにチャレンジする力 ・ あきらめないで最後までやり遂げる力 ・ みんなの笑顔をふやしていく力	○ 椋鳩十先生の生き方について補足を行う。また、世界的に有名な作家である椋鳩十先生が、小学校時代は作文が苦手だったことなど、自分たちと同じような存在であることをおさえる。 ○ 4人グループで同じグループの人のすばらしいと思うところを伝え合わせ、みんなそれぞれ、すばらしい力があることに気付かせる。
終末	5 自分自身が育てていきたい「すばらしい力」について考える。 ・ 思いやる力を育てていきたい。 ・ 友達のよさを見つけられる人になりたい。 ・ 苦手なこともあるけど、あきらめない力を伸ばしたい。 6 担任からのメッセージカードを読む。	○ 自分のよさを改めて考えさせることを通して、自分自身のよさに気付き、誇りある生き方、夢や希望など喜びある生き方について考えを深めさせる。 ○ 担任から、一人一人の「すばらしい力」を書いたメッセージカードを渡し、自分の持つよさに目を向けさせ、これからの生活に期待感をもたせる。

## 実践を振り返って

### 【成果】

- ・ 事前に教材文を読ませ、一言感想を書いたり、椋鳩十先生や自分、自他のすばらしさなどについて自分なりの考えを持たせたりしたことが、展開段階での自他のよさや可能性についての自覚を深めたり、よりよい生き方へと希望を膨らませたりするのに効果的であった。
- ・ 終末における「担任からのメッセージ」では、授業後に感想をうれしそうに伝えに来るなど、その子なりのすばらしさについて、考えを深めている姿が見られた。

友達が困っていると、いつもさりげなく  
手助けしている姿を見て、心があたたか  
くなります。ろう下も ■さんのおかげで、  
いつもバカバカです。お礼がっ

【担任からのメッセージカード】

### 【課題】

- ・ 事前に本教材に掲載されているコラム等を活用しながら、椋鳩十先生の人となりや偉業について調べたり、説明を聞いたりする機会や場を設定することによって、椋鳩十先生の生き方やそのすばらしさをより実感させることができるようになる。
- ・ 「よりよく生きる喜び」の内容は、高学年に新しく加わったものである。学校生活全般の中でより活かしていくことができるように、各教育活動との関連を意図的・計画的に位置付けていく必要がある。